

風呂敷状・带状かぶりもの資料の分析

国立民族学博物館収蔵標本による(4)

山 崎 光 子

Analysis of *Hurosiki* and *Obi* for Headgear: Specimens
in the Museum of Ethnology (4)

Mitsuko Yamazaki

はじめに

近年、民俗服飾をはじめとするわが国の有形民俗文化財が再評価されつつある。敗戦後の、伝統的なものを軽視する意識の変革、高度経済成長とそれにもなう技術革新の波が、民俗文化財を一掃してしまい、今日では人々の目にふれることさえ困難になってきている。その再評価のためにも、まず資料の保存と記録作成が必要であり、民俗服飾に関しても各種の調査研究が企画、実施されている。

国立民族学博物館では、昭和49年から4年間、第5研究部の中村俊亀智教授を代表者とする労働衣服（アチック・ミュージアム収集資料を中心とする）の共同

研究が行なわれ、いずれその成果の一部が、国立民族学博物館の共同研究報告（仮題「のら着—農山村の労働着」）として出版される計画である。

ここではその共同研究員の一人として分担した国立民族学博物館収蔵標本の中の“かぶりもの資料”についてを、前回報告した“刺子資料”に次いでとりあげたものである¹⁾。

国立民族学博物館のかぶりものに関連する資料には多様な種類があるが、その中で、布製の素材で、労働用（日常用）と思われるかぶりものを、眼当、頭当、手拭も含めてとりあげた。その大半はかつてのアチック・ミュージアム収集資料である。ここでは風呂

形状分類	印
風呂敷状	■
おこす頭巾	□
帯状	✱
頭巾状	▲
船帽子	○
眼当	★
手拭	●

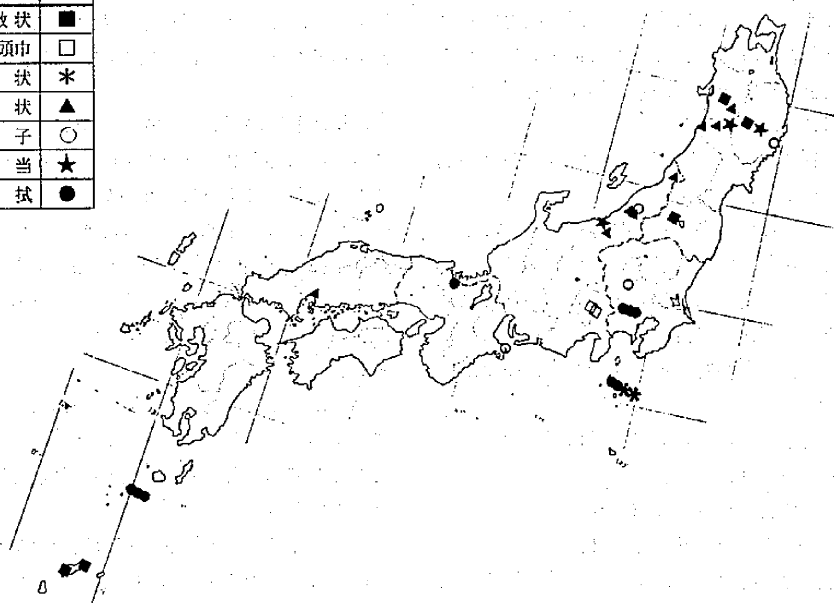


図1. かぶりもの資料の採集地

敷状・带状かぶりもの、頭巾状かぶりもの、船帽子・眼当・手拭の三報にわけた。

本報では風呂敷状・带状かぶりもの資料を観察した結果を報告する。

研究方法


研究方法は前報と同様刺子資料の分析に定めた方法に準じ、次の項目とするが、特に説明を要しない項目も含めてすべてのデータを一覧表にした。

- (1) 資料の情報：名称（呼称）、採集地、採集年代、かぶり方など
- (2) 形状、寸法、仕立て方（写真・図を含む）
- (3) 材料、染め色、柄、意匠構成など（図）
- (4) 縫い方、裁ち方（図）、用布、重さ、厚さ等

結果と考察

資料1-1 【品名】被りもの

〔標本番号〕23565（衣類F-3-7）

鹿児島県奄美大島のかぶりもので、現地名は〔カブリ布〕という。図3、写真1にみられるように薄手の白木綿布に可愛らしい模様の絞りをして藍で染め、2枚はいで四角にしてある美しいかぶりものである。かのて絞りと巻き上げ絞りで竹の葉などの模様を素人の手で染め出したもので、絞り損った箇所もある。始めからかぶりもののために染めたものではないらしく、模様が途中で切れている。布の三隅に簡単な印（Z／）があるのは、かぶる時に模様の位置を配慮するためのしるしと思われる。布は三角に折って被ったことが頭部の退色の様子からわかり、結んだと思われる角や頭部は切れて穴があいている。

色は紺〔10B 2／2（bluish black）〕、絞りの端のかすれは美しく、藍染である。

縫い方は、右捻りの黒糸1本どりで、0.5cmの縫い代、〔11針目／10cm〕で合わせ縫いだけである。両端は耳であるが、裁ち切り部分は0.7cmの縫い代で表に大きな針目を出して、〔11針目／10cm〕で三つ折りぐけである。その表の糸が特に退色が著しく、糸足が白くくっきりみえる。

布の厚さ、重さ、推定用布等は表1に示した。裁ち方推定図は図3の通りである。

資料1-2 【品名】被りもの（サジ）

〔標本番号〕18545（衣類F-4-2）

1936年8月、鹿児島県大島郡宇検村宇検で浜田国義氏の採集したもの。寄贈者は浜田フサ氏、採集年月は不明であるが、現地名は〔サジ〕とあり、女の冠物で

労働用と附記されている。

やや厚手の紺と黒の木綿布、2枚を簡単にはいで四角にした被りもので、あきらかに労働用を思わせる。

穴のあいた使い古しの紺〔10B 2／2（bluish black）〕木綿布（以前も被りものだったのではないと思われるような絞ったあとが今度は縫目側にある）はかつての縫い代を一方はそのまま残したまま裏返しに使ったため逆になっている。灰色〔N 2（grayish black）〕部分は新しい布を用いたものかもしれないが、すでに汚れている。やはり三角に被って用いたと思われるしわのあとがある。折り山の退色はみられない。合成染料で染められた布であろう。

縫い代は0.5cmほどで、はぎは右捻りの黒糸1本どりで〔8針目／10cm〕の合わせ縫いである。両端は耳の他、裁ち切り部分は0.6cmほどの縫い代で、粗く〔7針目／10cm〕で折り伏せ縫いがしてある。

資料1-3 【品名】被りもの（フロシキ）

〔標本番号〕17866（衣類F-5-14）

1927年3月9日、秋田県北秋田郡荒瀬村、高橋文太郎氏の採集したもの。寄贈者は佐藤富松氏で、現地名はフロシキであり、冠りもの、狩猟用と附記されている。

桐の花、竹、蝶の模様が飛んでいるやさしい感じの三枚はぎの風呂敷状布である。だいが傷んでいるが、欠けた部分に紺無地木綿をはいだりしてあり、古くなった布をかぶりものにしたものかもしれない。三角にしてかぶったことは藍が落ちたあとが残ってわかる。附記に「荒瀬村なく大阿仁村根ツ子の誤りか」ともあるが、いずれにしても阿仁町で、かなり近い距離にある。

形状は並幅の緋布三枚をはいで、四角にしたものである。紺〔10B 2／2（bluish black）〕の手織木綿であるが前述のように、小さいもようが緯綜緋で織り込まれている。1隅に区印が刺しゅうしてある。縫い方は1cmほどの縫い代で左捻りの紺糸1本どりで〔13針目／10cm〕で合わせ縫い、へりは0.4cmの折り代で表に小さい針目を出して、ていねいに三つ折りぐけがしてある。

よく使いこんであり布が部分的に薄くなり後がすぐて見えるほどになっている。切れたところははぎ、また他の布で補ったりしてよく手入れして使われたかぶりものである。

資料1-4 【品名】被り用風呂敷（シハン）

〔標本番号〕16197（衣類F-5-9）

1933年、岩手県岩手郡平石町で田中喜多美氏の採集、寄贈によるもの。現地名〔シハン〕とある。シハンは、

風呂敷状・带状かぶりもの資料の分析

表 1. 風呂敷状(■)・带状(*)かぶりものデータ一覧表

資料名(現地名) 標準番号 採集地	No	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
		被りもの (カブリ布)	被りもの (サジ)	被りもの (フロンキ)	被り用ふ ろしき (シハン)	手拭	被りもの	被りもの (婦人カブリ 物)	頭上通敷 用布 (マギモン)	頭当 (マゲモノ)	頭面用平紐 (デタチ フタメン)
項 目		23565	18545	17866	16197	23583	23564	23106	25775	14928	21372
		鹿児島 奄美大島	鹿児島 宇検	秋田 荒瀬	岩手 平石	福島 磐梯	山梨 甲府	山梨 甲府	東京 新島	東京 新島	
形 状 分 類	風 呂 敷 状								帯 状		
		風呂敷状のかぶりもの □				おこそ頭巾 □		頭当 □	带状覆面		
仕 立 て 方		単	単	単	単	単	単	単	刺子	刺子	袷
接ぎ布の枚数幅		1	2	1(2)	1	1(3)	1	1	3	3	1
寸 法	縦 cm	64	75	88	72	74	70	62	31.5	30	6
	横 cm	64	65	96	58	64	145	152	156	150	150
	重なりの枚数	1	1	1	1	1~2	1~2	1~1		3	2
材 質		木綿	木綿	木綿	モスリン	木綿	モスリン	絹ちりめん	木綿	木綿	木綿
組 織		平織	平織	平織	平織	平織	平織	平織	平織	平織	平織
糸 密度	経 本/cm	17	20	20	28	15	23	細かい	26	26	18
	緯 本/cm	16	18	20	26	13	25		23	23	17
厚 さ mm		0.46	0.49	0.49	0.50	0.43	0.29	0.38	2.42	2.16	1.02
色	表	紺	紺、灰色	紺地	ピンク	白	黒無地	紫無地	藍	藍	紺
	裏						水色	薄紫	紺	藍	紺
織、染、柄、等		絞り染め	無地	緯緋	無地	注染模様	無地	無地	型染	型染	細かい緋
縫い糸・縫い方	材 質	木綿	木綿	木綿	絹	木綿	木綿	絹	刺し糸	木綿	袷
	燃 り	S	S	Z	S	S	S	S		S	
	色	黒	黒	紺	ピンク	白	黒	紫		白	
	本 数	1	1	1	1	1	1	1		2	
	縫い代 cm	0.5 0.7	0.5 0.6	1	0.5	1	1.2	0.5	刺し方	杉縫調入子菱	
	縫い方	合わせ、三つ折りぐけ	合わせ、三つ折りぐけ	合わせ	折り伏せ	合わせ	三つ折りぐけ	三つ折りぬい	縦	51本/10cm	
	縫い目 針目/10cm	11 11	8 7	13	28	12	7	15	横	13針目/10cm	
布 幅 cm		33	34	34	58	32	70	62	32	30	15
推 定 用 布 cm		134	148	270	74	222 (手拭3枚)	145	152	156	150	155
重 さ g		50.2	84	142	41	60	104	142	480	360	48

岩手県雫石町御明神のかぶりものとして1938年に今和次郎氏によっても紹介されており、頭と顔を包むふろしきの布で、若い婦人は桃色や紅の布であるという²⁾。シハンの語源は柳田国男氏によれば五尺手拭を四半分に切ったものの意であろうという³⁾。本資料は広幅布の四角な風呂敷状のかぶりもので、素材はモスリンであるが何度も洗濯に用いたためか、手ざわりがかたく、また、虫喰いの跡がひどく、かなり形もくずれている。

色は、現在は、淡黄色〔2.5 Y 8/6 (pale yellow)〕であるが、縫い代の内側の退色していない部分はピンク〔2.5 R 8/6 (pink)〕であるから、もとの色は文献にもある桃色なのかもしれない。

縫代は0.5 cmであるが、縫目は右よりの細い絹糸で、細かく〔28針目/10cm〕で丁寧に折り伏せ縫いがしており、いかに大切な布であったかわかる。方向をきめて、三角にしてかぶっていたことがしほりじわか

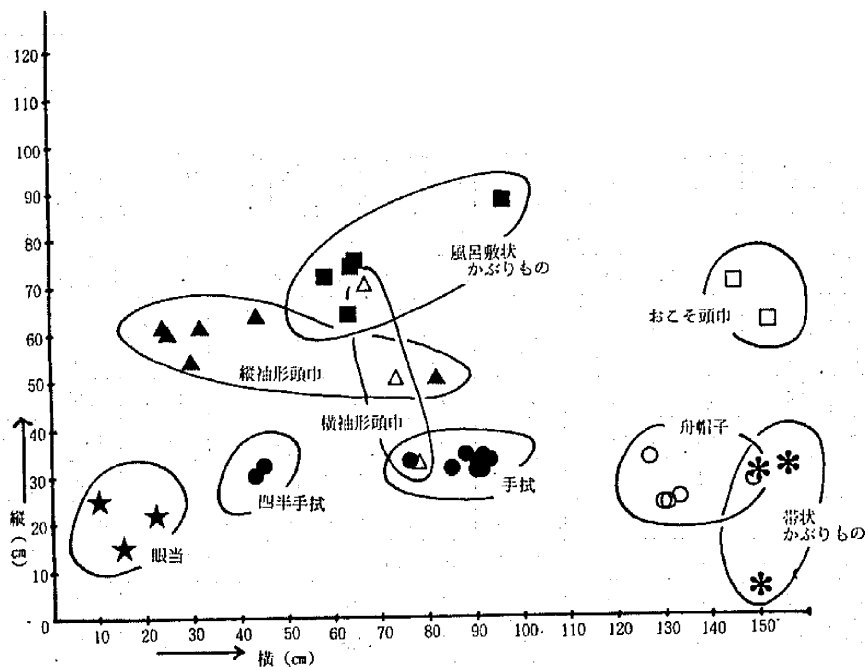


図2. 縦横の長さからみたかぶりものの形態分類

らわかる。

資料1-5 【品名】手拭

〔標本番号〕23583 (衣類F-3-9)

福島県耶麻郡磐梯村で採集されたもの。市販の同じ模様の手拭を2枚中央部のみつなぎ、更にもう1枚、裏側の中央部分に今度は真横に縫いつけてある。3枚の接点の近くにはほぼ9cmの長さの黒い紐が輪にしておいてある。かぶらない時にはその紐で下げておいたものであろうか。これは奥羽地方でよく被られ、×字状にしてかぶるものもあるという。

全体に黄ばんでいるが、折りじわなど使用したあとが全くみられないのでこの資料のかぶり方は推察できない。

手拭の糸密度は粗く、経〔15本/cm〕緯〔13本/cm〕で、平織木綿である。

染め模様の色は黒〔N1 (black)〕、紺〔5PB 3/8 (dark blue)〕、青〔2.5B 5/6 (dull greenish blue)〕、茶〔10YB 4/4 (dark yellow brown)〕をあしらった注染である。

縫い方は手慣れており、手拭2枚の合わせ縫いの上に、もう1枚を中央でとめて周辺を貼りつけるように太い右捻りの白木綿糸1本で表に小さな目を出して〔12針目/10cm〕で縫ってあるが、あとは耳と裁ち切りの

ままである。

用布は手拭を3枚用いてある。

資料1-6 【品名】被りもの

〔標本番号〕23564 (衣類F-3-7)

採集地は山梨県甲府市である。街着用の頭巾であろうか、モスリンの表地にやはりモスリンの色鮮やかな水色の裏布が頭部についている。40cmあまりの紐が2本ついていて、おこそ頭巾状に被るものであろう。

虫食いのあとは少いが、裏布がひどく汚れて変色して茶色や紫色になっている。布は広幅ものをそのまま使って、両脇を1.2cm程の縫い代で右捻りの黒木綿糸1本で丁寧に〔7針目/10cm〕で三つ折りぐけしてある。裏布も紐も丁寧に折りぐけしてある。色は表は黒〔N1 (black)〕、裏は水色〔薄緑味青〕〔2.5B 8/4 (pale greenish blue)〕であった。

資料1-7 【品名】被り物

〔標本番号〕23106 (衣類F-3-7)

山梨県甲府市で採集されたもので現地名欄に〔婦人カブリ物〕とある。

にぶ紫〔7.5RP 4/4 (grayish red purple)〕の広幅布1枚(長さ150cm)に子(耳につけるひも)を2つ付けた外出用おこそ頭巾であるが、顔の側頭の頭頂から26cmのところで左右を糸でとめてあり、簡

便にかぶられるようになっている。裏中央に大きな紫味灰〔10P 5/2 (parplish gray)〕のモスリン布がついている。特に、前方部の裏には、やや明るい紫〔7.5 P 5/4 (grayish purple)〕の布がついている。

縫い方は0.5 cmの縫い代で太い右捻りの紫の絹糸で〔15針目/10cm〕で細かく折り伏せぬい、裏布は、前方は合わせ縫いのち〔9針目/10cm〕で前後同じ針目で並縫いでとじつけてあり、後方は耳ぐけである。上から15cmのところは8.5 cmの長さでウについて二本のチのひもは丈夫そうな丸い組みひもで色は灰味青〔2.5 B 6/4 (gayish blue)〕である。表面布はやや退色し、表のモスリンは若干きれているが、全体的にみて、あまり着用されたあとではなく、やはり外出用として用いられたものであろう。しかし、同形のものが、労働用としてあったことは考えられる。

資料1-8 (品名) 頭上運搬用布
(標本番号) 25775 (衣類F-3-15)

資料1-9 (品名) 頭当
(標本番号) 14928 (衣類F-5-2)

この二資料はいずれも東京都新島で収集されている。資料1-8は新品、資料1-9は使い古してへりとり布などもかなりとれてなくなっている。素材の一部に同一の紗綾形模様の型染布が用いられており、刺し模様も二者が共通した杉綾調の入子菱で、あたかも期を一にして作られたもののように思われる。しかし採集時期は資料1-8が1955年11月20日、古河静江氏によって、資料1-9は昭和のはじめの1928年に藤木喜久磨氏によって採集されたもので27年のへだたりがある。前者の頭上運搬用布の現地名は〔マギモン〕、後者、頭当の現地名は〔マゲモノ〕であるが「頭に物を担ぐに用ふ」と附記されている。古くはマギワ、後にマゲモノとも云われたようで、輪形に丸く巻いて頭にあてて、その上に米2俵や、六・七寸角の材木の4~5間あるものをせ頭上運搬したという⁶⁾。したがってかぶりものとはやや性格を異にするが、素材や形状に類似点が多いのでここに含めた。

民族学博物館では第三収蔵庫にも標本番号〔K4926〕、〔K4927〕の同種の頭当てがある。それは型染ではなく、手製らしい単純な絞模様であった。

形状はおよそ30cm幅、150cm長さで、古着の再利用であろう。接いだあとも何ヶ所がある。四隅は小さくカーブさせ、周囲に1cm幅のへりとり布をまわしている。布は3枚重ねてあるため他の資料にくらべて重い。第三収蔵庫の資料はK4927が350gで厚み3.2mm、K

4926は370gで2.7mmであった。

素材は資料1-9は前述のように型染の古木綿布で藍染の退色した色〔3PB 4/5 (dull blue)〕であるが、資料1-8は、一面が1-9と同じ布であって、他の面とへりとり布は比較的新しい紺木綿〔3PB 1.5/4 (dark blue)〕である。糸密度は刺し模様で埋めつくされているため計りにくい。

刺し模様はいずれも右捻りの白木綿糸2本どりで縦〔51本/10cm〕、横〔13針目/10cm〕ほどである。資料1-9はよく使いこんで表布がすり切れ中側の布がのぞいている部分も多いが、形をとどめている。白い部分は白糸も含めて黄変している。

縫い方、裁ち方は単純なため説明を要しないが、へりとり布は右捻りの黒糸1本どりで糸がほとんどみえないほどいねにくけてある。したがって縫い目がほつれることなくウになったへりとり布の端からすり切れてしまっている。

資料1-10 (品名) 覆面用平紐
(標本番号) 21372 (衣類F-4-12)

現地名称は〔デクチフクメン〕であり、附記として「フクメンまたはハンコタンナ、木綿カスリ」とある。収集地、収集者等の記載はないが色柄や、端を止めるための寛永通宝の小銭や刺しゅうの様子からみて、よく知られている山形のハンコタンナと思われる。同類のものは秋田県にもタナと称して多くみられる⁶⁾。

形状は150cm丈、6cm幅ときわめて細長い。手拭を併用しながらかぶるが、この一本を眼の上と下に巻いて覆面とするためこの名称となったのであろう。

素材は次報告の資料2-1のカガボースと同様かすかな経緯緋が無作為に入った紺〔3PB 1.5/4 (dark blue)〕木綿布で、刺しゅうは右捻りの白木綿糸4本どりで単純な模様を2本刺し、内側の糸端を少しのばしてウにして小銭をとめてある。

仕立て方は幅を二つ折りにして袋縫いにしたもので、刺しゅうのある一方の端が断ち切りのままになっているのは、ほつれたためであろうか。

総括

風呂敷状、帯状かぶりものは形状分類をすると表1にみられるように、風呂敷状かぶりもの、おこそ頭巾、頭当、帯状覆面に分かれる。

1. 資料の情報

- a. 風呂敷状のかぶりもの (資料1-1, 2, 3, 4, 5)

- 方形の風呂敷状の布を三角に折ってかぶるかぶりものである。ただし資料1-5は手拭が普及してからのものでやや異なる。
- 呼称は、カブリ布、サジ、フロシキ、シハンと多様である。
- 採集時期は昭和2, 8, 11年と古い。
- 採集地は図1にみられるように鹿児島県と秋田県、岩手県と南北にわかれる。
- 本報告では共同研究の主旨にそって北海道と沖縄の資料をはぶいたが、北海道のフロシキカムリ（四角いフロシキを三角に折ってホッカムリし、その上にテヌグイで鉢巻きをして固定する⁷⁾）はよく知られており、沖縄の風呂敷かぶり資料も国立民族学博物館に収蔵されている。沖縄のものは、アチック・ミュージアム収集品（早川孝太郎氏採集）の標本番号 17846 のウップヤ（沖縄県宮古郡平良町で1927年採集）と標本番号 17671 のウッパイ（沖縄県八重山郡竹富村大字黒島にて1935年採集）で、後者には、「ウッパイは風呂敷のこと、これは女性が頭に被る。三角形に折り鉢巻をなす」と附記されている。

（写真1参照）

b. おこそ頭巾（資料1-6, 7）

甲府のかぶりもの2点であるが、これは一般におこそ頭巾と云われ、明治ころから全国的に婦人の間に流行したかぶりものである。本資料はモスリン地、絹のちりめん地で防寒用、外出用かぶりものと思われるが、同形の労働用かぶりものは新潟県などにも多い。紐も、資料1-7の耳にかけするためのちという輪は外出用に多いが、紐状のものもある。風呂敷状に比べ、長方形のため布量が多く、首まわりもよく被覆するので防寒用として役立つ。

c. 頭当（資料1-8, 9）

これはマギモン、マゲモノと呼称される東京都新島の頭上運搬用布で、かぶりものの範疇に入らないが、形状が帯状の広幅のかぶりものと共通しているためとりあえずこの項においた。わが国では特に女性の頭上運搬の風習の歴史は古く、絵巻物などにも多くみられる。瀬川氏によると⁸⁾全国各地にあった頭上運搬用のウ（輪）は、藁やガンナ屑を布で巻いて輪としたものや小ぶとんなどであるから、型染の布や絞り染をほどこし、丁寧に刺子してへりとりをつけたこの新島のマギモンは特に注目すべき頭当と云えよう。採集年は昭和3

年と30年と異なるが、同時に仕立てられたもののようにみえる。

d. 帯状の覆面（資料1-10）

これは名称の通り覆面用平紐で、専ら覆面にしかぶる労働用かぶりもので、前述のようにハンコタンナ、またタナと呼ばれ、山形、秋田県に分布している。本資料に情報は記されていないが、山形県のハンコタンナの特長をもっている。

2. 形状、寸法、仕立て方、その他は表1に示した通りである。

- 形状は風呂敷状は方形、おこそ頭巾は長方形、頭当は広幅の帯状、覆面は細幅の帯状であるが、その縦（耳のついている縦方向）、横の長さをグラフに示すと、図2のように各々のグループによって異なる位置を示す、特におこそ頭巾は、一枚の大きな布を用い着装の段階で頭部や面部、頸部を覆うため、他のかぶりものよりも縦横とも大きい。
- 仕立て方は風呂敷状かぶりものは単仕立てで頭部に裏布つきのものもあるが、帯状覆面は袷仕立てで、頭当はその用途に合うように厚手な刺子仕立てである。

3. 材料はほとんど平織の木綿であるが、労働用以外のものであるため、モスリン、ちりめん地もある。

- 色・柄は木綿はほぼ紺地で、無地の他、緋、型染、絞り染と多様であるが、他にピンク、紫などの色無地もある。手拭は近年の白地の注込染である。糸密度は素材ごとに大きく異なる。

4. 縫い方、裁ち方は、布幅が並幅か広幅かによって異なる。広幅の場合はそのまま1枚布で用い、並幅は2枚をはいで方形に仕立てる。大きい風呂敷状にするため、資料1-3のように3枚をはいで方形にしたものもあった。

- 縫い糸は布と共色の右捻りの糸で、素材に合わせて綿糸や絹糸を使っているが、昭和2年採集の秋田のフロシキは左捻りの糸であった。頭当の刺子は模様がよくみえるように紺地に2本どりの白木綿糸であった。

- 縫い方については、はぎは合わせ縫い、周辺は三つ折りぐけや折り伏せ縫いで、縫い目は資料によって粗密があった。

- 布の厚さは一枚仕立て、袷仕立て、刺子仕立ての順に当然厚くなるが、布の重さは、厚さと用布の量、裏布の有無などによりそれぞれ異なる。

- 用布は風呂敷状は並幅布で140 cm前後、おこそ頭巾は広幅布で150 cm前後、帯状は丈の長さの150

～160 cmが必要と推定される。

謝 辞

この報告は国立民族学博物館の共同研究「日本在来の労働衣服の比較研究」の成果の一部である。御指導頂きました共同研究の代表者の中村俊亀智教授（国立民族学博物館）、ならびに西村綏子教授（岡山大学）をはじめとする各共同研究員の方々、さらには資料の利用に御基力下さいました国立民族学博物館情報管理施設の方々に、心から御礼を申し上げます。

文 献

- 1) 山崎光子；防寒着型（二部式）刺子資料の分析，
農作業着型（二部式）刺子資料の分析，襦袢着型（一部式）刺子資料の分析—国立民族学博物館収蔵標本による(1)，(2)，(3)—。県立新潟女子短期大学紀要，
No 21，1984。

- 2) 今和次郎；岩手県御明神村の農衣。（今和次郎集，
No 9，131，ドメス出版，1972）
- 3) 柳田国男；手拭沿革。（柳田国男集No 14，393，
筑摩書房，1969）
- 4) 同上，386。
- 5) 瀬川清子；販女—女性と職業。78，未来社，1975。
- 6) 守屋磐村，山崎光子；覆面考料。171～175，源
流社，1979。
- 7) 渋谷道夫；北海道の衣と食。23，明玄書房，1974。
- 8) 前掲，販女。76～98。

（1985年1月16日受理）

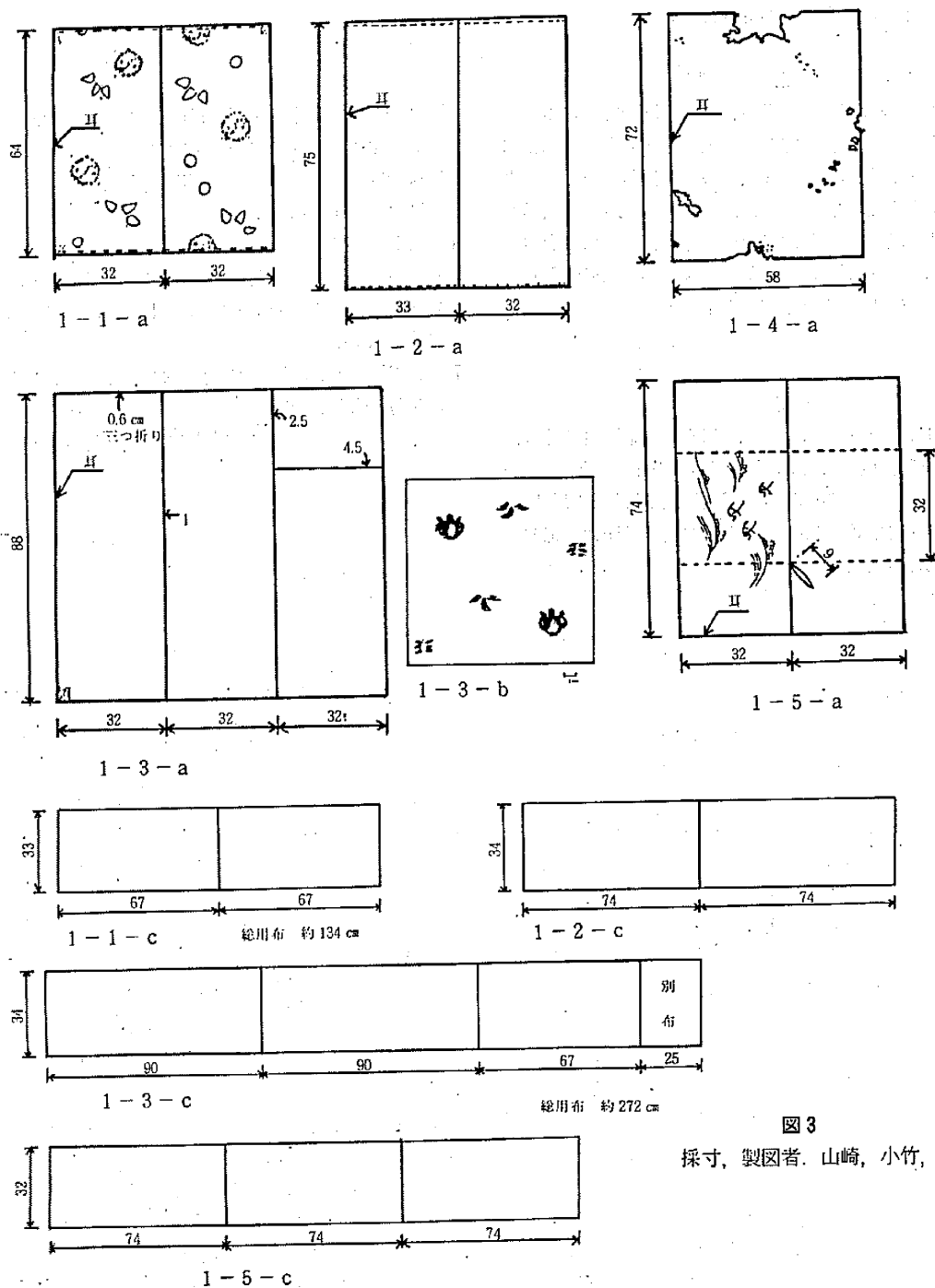


図3

採寸、製図者、山崎、小竹、市川。

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------------|
| 1-1-a | 被りもの(カブリ布) 23565 形状図 | 1-3-a | 被りもの(フロシキ) 17866 形状図 |
| 1-1-c | 同上 裁ち方推定図 | 1-3-b | 同上 緋柄 |
| 1-2-a | 被りもの(サジ) 18545 形状図 | 1-3-c | 同上 裁ち方推定図 |
| 1-2-c | 同上 裁ち方推定図 | 1-4-a | 被用ふろしき(シハン) 16197 形状図 |
| | | 1-5-a | 手拭 23583 形状図 |
| | | 1-5-c | 同上 裁ち方推定図 |

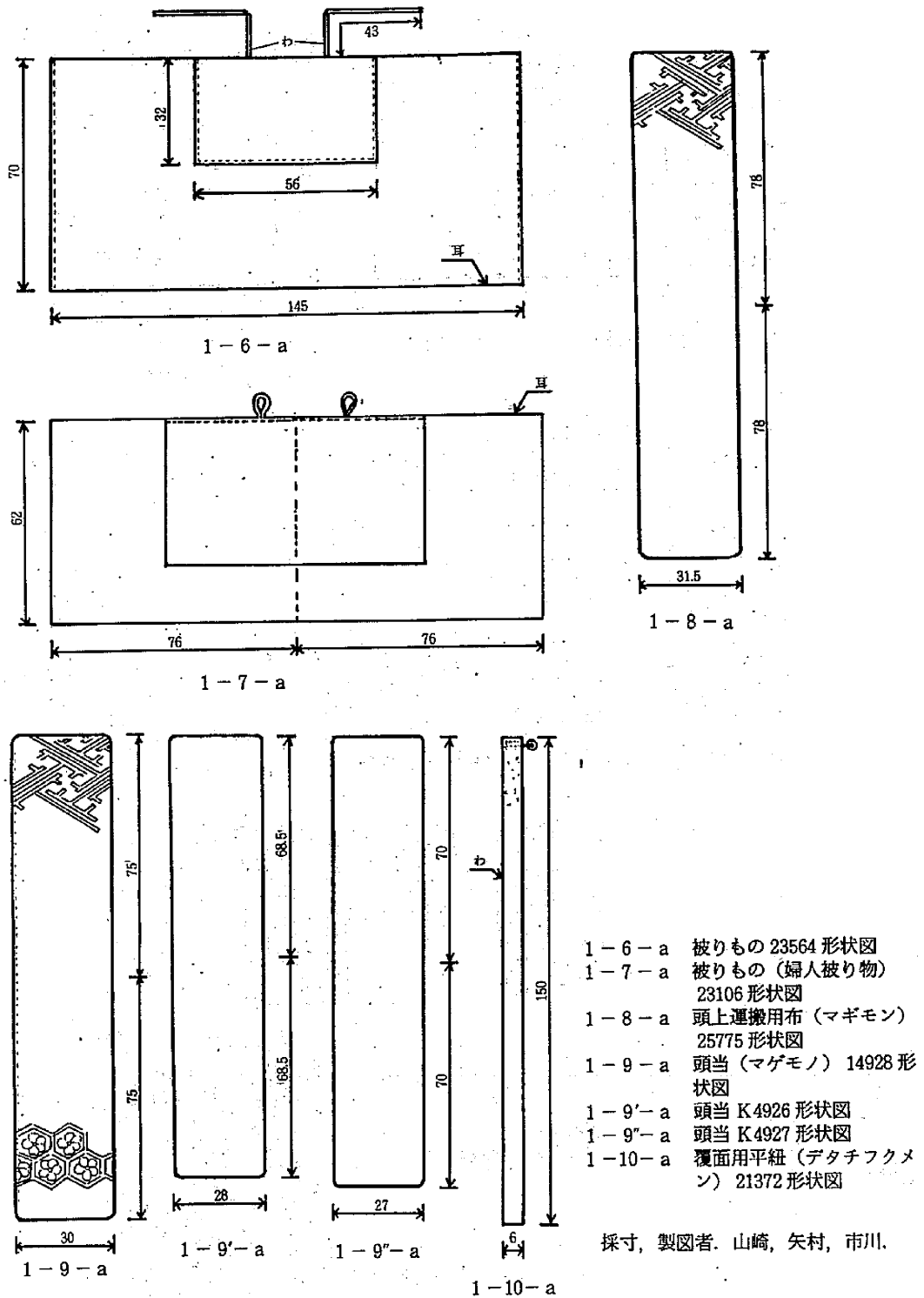
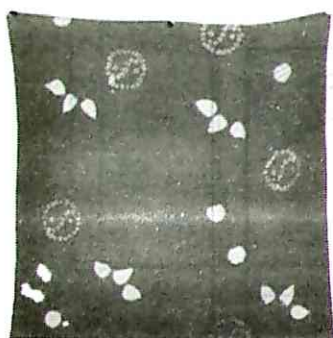
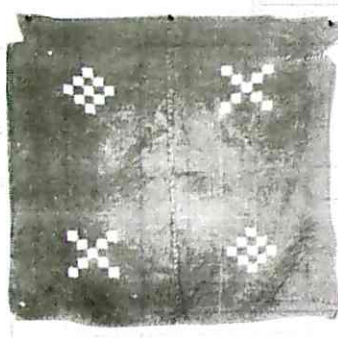


図 4



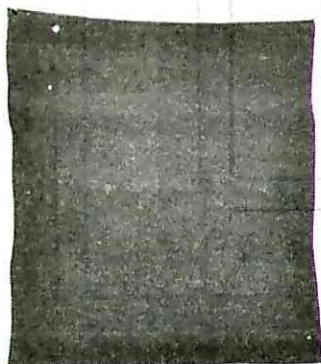
資料1-1 カブリ布〔23565〕



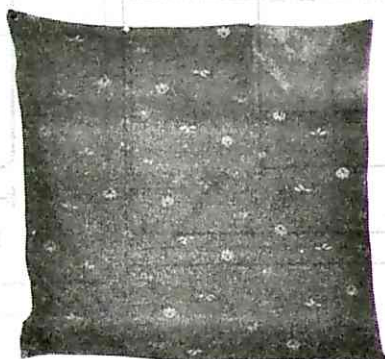
資料1-1' ウッフヤ〔17846〕



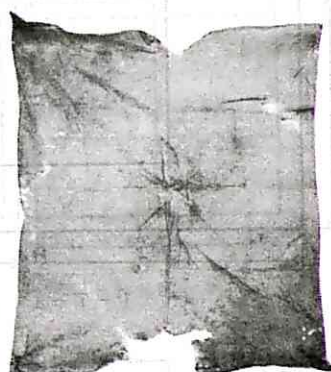
資料1-1'' ウッパイ〔17671〕



資料1-2 〔18545〕



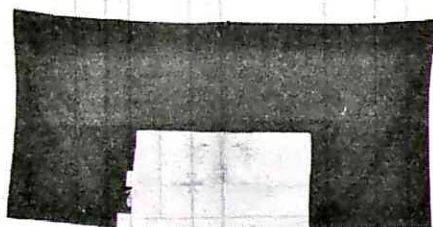
資料1-3 フロシキ〔17866〕



資料1-4 シハン〔16197〕



資料1-5 手拭〔23583〕



資料1-6
被りもの〔23564〕

資料1-7
被りもの〔23106〕





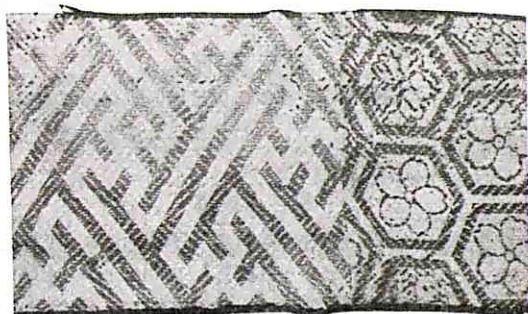
資料1-8 マギモン〔25775〕



資料1-9 マゲモノ〔14928〕



資料1-9' 頭当〔K 4926〕



資料1-9 マゲモノ 部分の拡大



資料1-9' 頭当〔K 4927〕



資料1-9' 頭当部分の拡大
写真2



資料1-10
デタッチフクメン〔21372〕

